

2020年6月22日  
 株式会社エンバイオ・ホールディングス

## 老朽化した井戸の調査・改修で住民や農園への水供給を実現

# 7月よりヨルダンでの太陽光発電を用いた水資源開発事業開始

## SDGsが掲げる「安全な水」と「クリーンエネルギー」を届ける

土壌汚染対策などの環境ビジネスを展開する株式会社エンバイオ・ホールディングス（本社・東京都千代田区、代表取締役 西村 実）は、水不足が深刻なヨルダン北部のシリア国境地域において、太陽光発電を用いて地下水を汲み上げ地域に届ける大規模な水資源開発事業を7月より開始いたします。

現在、現地協力会社との合併会社を設立、モデルプラントを建設しています。今後、本プロジェクトを開始して現地調査を進め、老朽化などで使えなくなった井戸を改修します。地域への供給のための動力に太陽光発電を用いることで、水不足の緩和と安定したエネルギーの供給を実現し、「持続可能な社会」を目指すSDGsに貢献します。



### 老朽化する井戸と、難民流入による深刻な水不足

ヨルダンでは、国土の90%以上が年間降水量200mm以下で、国民一人当たりの年間水資源は129m<sup>3</sup>と極めて少なく、水資源の開発と公平な利用が重要課題の一つとなっています。多くの水資源を地下水に頼っていますが、揚水するための井戸は老朽化などで、放置されているのが現状です。また、シリアを始めとする近隣諸国からの難民流入によって、水資源の需要の増加に対応する必要があります。

### 太陽光発電を用いた安定した水の供給

エンバイオ・ホールディングスでは、ヨルダンでの水供給に向けた大規模なプロジェクトを展開します。

すでに、現地協力会社との合併会社を設立、モデルプラントを建設しています。この取り組みを基に、放置された井戸の調査を進め、改修します。井戸を使って地下水を汲み上げ、住民や農園への水供給を行います。

電気代が高く、上昇傾向にあるヨルダンにおいて、水の汲み上げに必要な動力は、太陽光発電によって得られる電力を使用します。そのことでランニング費用を削減でき、安価で安定した地下水資源の揚水と供給を実現します。

## 【詳細内容】

事業名：ヨルダン 水資源開発事業プロジェクト

合併会社：Enbio Lel Taqa FZC LLC

開始時期：2020年7月予定

プロジェクト金額：800,000万米ドル（モデルプラント）

エンバイオの役割：水供給事業、水供給事業への電力供給事業者としての役割を担う（予定）

## 【世界が目指す「持続可能な社会」の実現に向けて】

エンバイオ・ホールディングスは、汚染土壌を掘削除去・場外搬出せずに浄化できる原位置浄化という手法で低コスト・短工期・低環境負荷の土壌汚染対策を提案しています。当社はサステナブルな社会の構築に貢献することを経営理念としており、SDGsが掲げる目標達成に向けた事業に取り組んでいます。

発展途上の国々では、水不足の問題をはじめ、エネルギー供給や貧困など様々な問題を抱えています。当社の技術と経験を活かすことで、その国の発展に貢献します。ヨルダンでの水資源開発事業が、持続可能な社会の構築につながることを目指してまいります。

## 【会社概要】

社名：株式会社エンバイオ・ホールディングス（東証マザーズ6092）

所在地：東京都千代田区鍛冶町2丁目2番2号 神田パークプラザ8階

役員：代表取締役 西村 実

設立：1999年6月23日

事業内容：①土壌汚染対策事業 ②ブラウンフィールド活用事業 ③自然エネルギー事業

資本金：17億8600万円（2019年9月30日現在）

従業員数：81人（2019年3月現在）

URL：<http://enbio-holdings.com/>

本件に関するお問い合わせ先  
株式会社エンバイオ・ホールディングス 広報担当 廣瀬 大城  
TEL: 03-6849-2818 mailto: [info@pr-office.jp](mailto:info@pr-office.jp)